

高级日语教学参考

总主编 吴侃



第4册

W 上海外语教育出版社
外教社 SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS
www.sflep.com

中国书画函授大学建校二十周年纪念册

总主编 程俊

中国书画函授大学建校二十周年纪念册
CHINA CORRESPONDENCE UNIVERSITY OF PAINTING AND CALLIGRAPHY
20th Anniversary Commemorative Album

中国书画函授大学建校二十周年纪念册

高级日语教学参考

总主编 吴侃
主编 马安东
编者 张向荣 马安东

第4册

 上海外语教育出版社
外教社 SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS

图书在版编目(CIP)数据

高级日语教学参考. 4 / 吴侃主编; 张向荣, 马安东编.

—上海: 上海外语教育出版社, 2013

ISBN 978-7-5446-3037-5

I. ①高… II. ①吴… ②张… ③马… III. ①日语-高等学校-
教学参考资料 IV. ①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2013) 第 016197 号

出版发行: 上海外语教育出版社

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@slep.com.cn

网 址: <http://www.slep.com.cn> <http://www.slep.com>

责任编辑: 朱 丹

印 刷: 上海信老印刷厂

开 本: 890×1240 1/32 印张 4.25 字数 118 千字

版 次: 2013 年 6 月第 1 版 2013 年 6 月第 1 次印刷

印 数: 2 100 册

书 号: ISBN 978-7-5446-3037-5 / H · 1486

定 价: 9.00 元

本版图书如有印装质量问题, 可向本社调换

前言

《高级日语》自 2005 年 4 册全部出齐后，得到了广泛采用。现在特推出教学参考书，以便更好地服务使用者。

《高级日语》是作为日本国际交流基金的“日语教育”项目的成果，与日本著名日语研究及日语教育专家村木新次郎教授合作完成。在项目进行期间，笔者与村木教授一起探讨了“高级日语”所应该包含的内容及达到的目标。最终确定，内容应该全面反映日本的社会文化，介绍日本社会、日本人的思维及行为方式的方方面面。题材的选择应该广泛，包括随笔、评论、报道、小说、相声、剧本等等。难度确定为：最初部分与国内大部分中级日语教材衔接，而最后一课达到日本高考的“国语”考题的难度，中间的课文阶梯式排列。按照这一想法，由村木教授组织了一批日语研究者（包括硕士生、博士生）收集课文素材。该项目在日本的共同研究阶段结束后，再由国内组织多校的资深学者进行编写，所有日语内容均由村木教授最后审核。

从出版后的情况及反馈的信息综合来看，当初的目标基本达到，未发现教材中存在明显错误的“硬伤”。但对于这样一部内容广泛、全面，具有足够深度的教材，要想吃透其内容并教授给学生，无疑对教学者是一个不小的挑战。

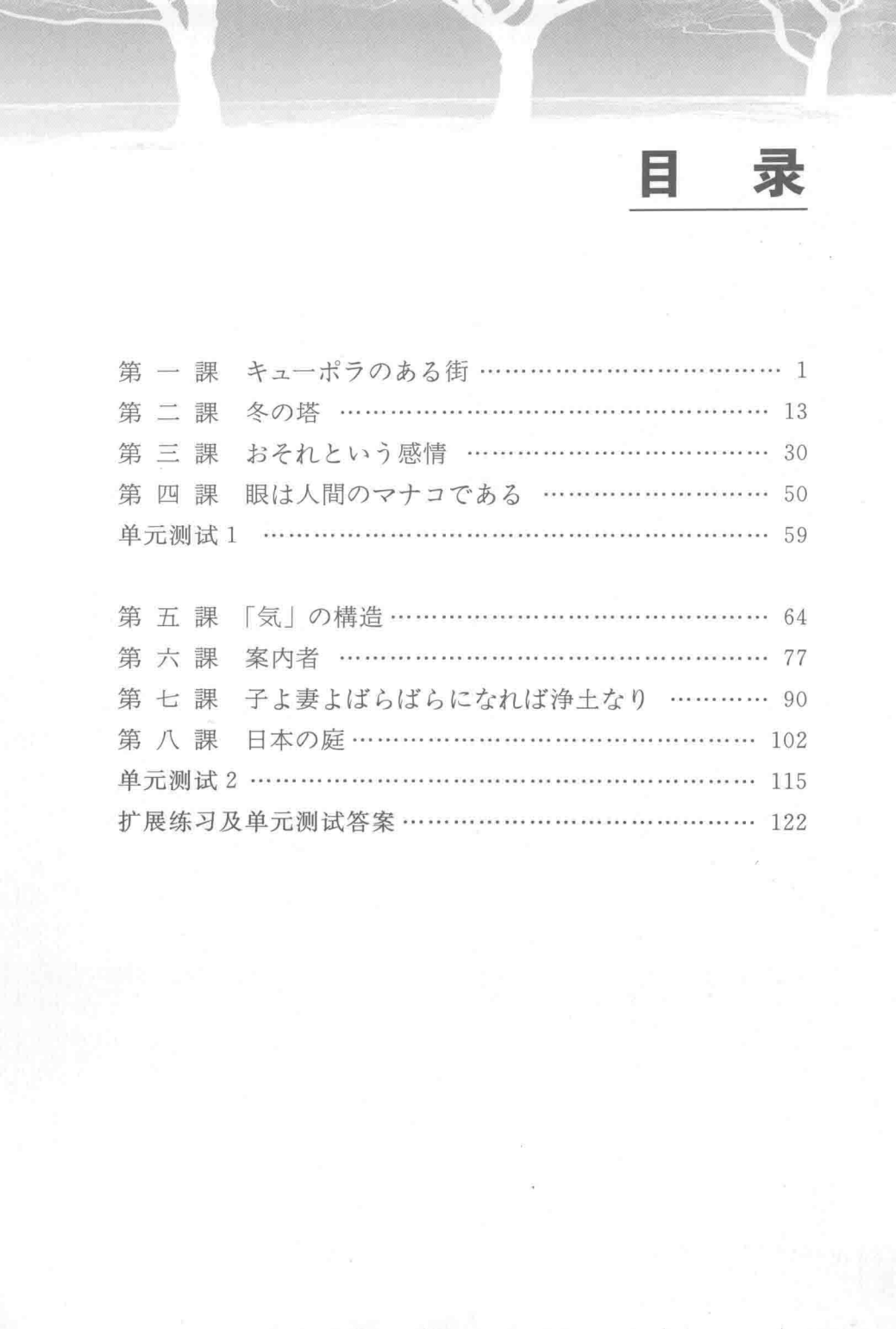
此次编写的这部教参，主要就课文内容、表达等各个方面加上了注释，并全文翻译课文，以便于教学者能够更加容易地、准确地理解课文，提高教学的准确性和教学效果。“课文注释”包括内容和语言方面，尤其是对于中国人理解起来难度较大的某些口语化的表达，需要与语境相关联考虑理解

的表达,以及含有古典语法的表达等,尽量作了详细的注释。“课文翻译”不考虑翻译技巧,尽量直译,以有助于理解课文原文句子。此外,编写了“课文背景”和“作者介绍”,增加了部分“扩展阅读”,以加深对与课文内容有关的日本社会文化内容的理解。并且加入了一些“扩展阅读”和“扩展练习”,供任课教师视需要选择使用。

愿这套《高级日语教学参考》能够对教材使用者有所帮助。书中如有谬误之处,恳请批评指正。

2012.12

吴侃



目 录

第 一 課	キューポラのある街	1
第 二 課	冬の塔	13
第 三 課	おそれという感情	30
第 四 課	眼は人間のマナコである	50
单元测试 1		59
第 五 課	「気」の構造	64
第 六 課	案内者	77
第 七 課	子よ妻よばらばらになれば浄土なり	90
第 八 課	日本の庭	102
单元测试 2		115
扩展练习及单元测试答案		122

第一課

キューポラのある街

1 作者紹介

早船 ちよ (はやふね ちよ) (1914. 7. 25～2005. 10. 8)。小説家、児童文学作家。岐阜県高山市出身。1929年、高山女学校高等科卒業し、産婦人科の病院に看護婦見習として就職。この年に最初の童話『松葉牡丹の種子』を「鑑賞文芸」に掲載。1930年、東洋レーヨン石山工場に転職。翌1931年には片倉製糸諏訪工場へ再度転職する。この時期の職歴がのちの作品に大きく反映されている。1934年に文学者の井野川潔と結婚。1941年、夫とともに文学同人誌「山脈」を創刊、初めての童話集『七ヒキノコガニ』を出版。1959年より1960年にかけて『キューポラのある街』を雑誌『母と子』に連載。同作は、1961年に出版され、翌1962年には日本児童文学者協会賞を受賞するとともに日活で吉永小百合主演により映画化された。その後も『キューポラのある街』の続篇を書き続ける一方、苦難の中でたくましく生きる女性や公害問題を追求する作品など社会性のある小説を発表した。晩年は、埼玉児童文化の会を中心とした児童文化運動を夫・井野川潔と二人三脚で推進した。2005年に老衰のため、神奈川県湯河原町の病院で死去。享年91。代表作としては、『キューポラのある街』(1961)をはじめ、自伝的な『峠』『湖』『街』『冷たい夏』『炎群の秋』『熱い冬』の六部作など、児童文学作品には『七ヒキノコガニ』(1941)、『ポンのヒッチハイク』(1962)、『春のシュトルム』(1974)などがある。社会批判の眼と人間信頼の心に裏打ちされた作品が多い。(日本大百科全書より)

2 课文背景

『キューポラのある街』は、昭和 34 年から 35 年にかけて雑誌『母と子』に連載され、翌 36 年単行本になり、映画化もされた。当初の読者対象が大人であった。作品は“啓蒙の書”の性格をそなえており、主人公が所与の環境に大きく支配されながら、さまざまな事物を見聞、体験するうち、その環境を克服して一人立ちしてゆくという基本構造である。

作者自身は、後書きで次のように述べている。「この作品に扱われている問題は、ずいぶん欲張っています。主題は、中学三年生のジュンを主人公に、いわばその〈近代的自我〉の目ざめを心とからだの両面から、その成長過程を追求していくことになります。そのテーマに沿って、高校進学か就職か進路をえらぶ問題、生活の貧しさということと、そのなかでの親子かんけいの問題、小・中学生の不良化、友だちとのあいだの民族のちがいと友情の問題、ハナエお婆の夫の南鮮抑留と友だちの北鮮帰還の問題、父母の職業と、中小企業に働く人たちの労働と賃金の問題、企業の近代化という問題と、古い職人気質である父と、そのしごとへの誇りと失業の問題、中小企業と大工場との対照と、そこに働く人たちの意識の問題、そのほかタカユキにとっては、母の信用と愛情の問題、ジュンにとっては女性の目ざめと性の意識の問題など、いくつもの問題が、問題提起のかたちで織りこまれています。」

3 课文注释

3.1 そっちのテーブルのねえちゃんらと、ぼうずには、ラーメンだ。(P. 1、本文 2 行目)

小さい男の子と女の子を呼ぶ場合、「坊ちゃん」「お嬢さん」などのほかに、一般にその人のうちの一番小さいこどもの口ぶりで表現する。「姉さん」「姉ちゃん」「お兄さん」など。また、男の子を呼ぶ場合、「ぼ

くちゃん」もよく使う。

3.2 ノブ子は思わず、つばを飲み込んだ。(P. 2、1行目)

ノブ子は今までこのような目の前で料理を作ってくれる小さな店に入ったことがなかったので、音、におい、動作などに食欲をそそられるという様子を表している。

3.3 こういう食べ物を、気味悪いなんて、ママのように、あたし、決して思わない。(P. 2、3行目)

ノブコの母親は、庶民の生活は貧しい、品がないと思いこんで、庶民生活を軽蔑して、優越感を持っているが、ノブコは実際の庶民の食べ物を目の前にして、むしろおいしそうに感じている。

3.4 リスは、そんなノブ子を面白がって、「キヤーっ」と、はでに笑う。(P. 2、12行目)

ノブコは羨ましいほどの裕福な生活を送っているのに、大衆的な店に入って、なんでも珍しく熱心に見て、まねをして、言葉遣いまで変わったことを、リスは面白いと思っている。

3.5 「抵抗期ってやつなんだろうよ」(P. 4、本文下から5行目)

正しい言い方は「抵抗期」ではなく、「反抗期」である。ここでは、筆者はジョーの知ったかぶりを表現しようとしている。

4 课文翻译

有熔铁炉的城市

早船 ちよ

辰五郎很快活地挥手招呼店里的女店员。

“喂，给我们两个来烧酒跟煎饺。……还有给那张桌子上的小姑娘们和小伙子来拉面。拉面可以吧，来四碗特大碗的。”

成舔了一下嘴唇，得意地笑了一下。

“哎呀。成，不是你要请客的吗？”

松鼠吃惊地高声责怪道。

“没事，没事。我呀，成帮我介绍工作了。”

辰五郎把手放在夹克的口袋里，把硬币拨弄得哗啷哗啷作响。隆幸一怔，吸了一口气，向纯递了个眼色。

成，你这家伙，哼，成这家伙，你给我记好了。把从我这里勒索去的一千日元捂在口袋里，还假装没事地敲诈我老爸请客。

“这次发薪日，因为工作的日子不多，拿到手的钱不多，可是，下回，我会请得阔气点的。”

辰五郎兴高采烈地将嘴凑向装有烧酒的杯子。

请人吃饭，——这是很长时间没有的事了。

“姑娘们，隆幸，吃吧。老子我请的客。”

“哦，谢谢款待。”

松鼠第一个拿了筷子，信子很有礼貌地向辰五郎低头致谢说：

“那么，我不客气了，叔叔。”

辰五郎端起第二杯烧酒，越发兴高采烈。

信子的拉面大碗虽然碗沿上缺了一个口子，可是装着一大碗满满的、热热的上面浮着一层油的面汤。

信子很稀罕、很认真地看着就在眼前的锅台上制作拉面和炒面等。锅里的水咕噜噜地滚着，中式炒锅里油冒着烟劈啪作响。在锅里翻炒的漂亮手法，就像魔术师一样。信子不由得咽了一口口水。

说什么这种食品叫人发疹，我可绝不会像妈妈那样想。到今天为止，这种店我连进都没有进来过……

信子学着纯和松鼠的样子，用筷子夹起面条呼呼地吹口气吃一口，然后啞啞地发出声来喝汤。

“好吃，太好吃了”

本想用“美味”这个词的，可是又一想更生活化点，就直白地说了。

“信子小心不要烫着舌头。”

纯笑眯眯地提醒道。

“嗯。很烫，烫得很爽。”

松鼠看着这样的信子觉得很好玩，“哈哈……”高声地笑了。然后凑到信子的耳朵旁轻声说道：“信子，下次带你去再稍微脏一点的店，更加便宜、更加好吃，量又很大的地方，好吗？”

“真的？一定要带我去”

信子充满了幸福感和好奇心。

社研的人好像口头禅一样的都说“要深入群众”，这些人就是人民大众吧。

大家随意地豪吃，心情愉快地，兴高采烈地，用喊叫一样的大声相互聊天，一起笑着，没有隔阂，生活气息很浓，非常棒。

成不时地把热切的目光投向信子。纯好像在竞争似的焦虑不安。……信子用视线的余光可以观察到这些，这也让她开心。成这样的人大概是街道工厂的工人吧。

“是他吧？说要跟你结婚的人”

信子小声地问松鼠。

“是呀，真可笑。我只是吻了一下他，他就头脑发晕了。”

“啊，震惊！”

信子深深地吸了一口气，监视般地看松鼠。

“哎呀，没什么可震惊的事啊。就吻了一下而已，……接下来……”

松鼠飞快地轻声说着。信子羞红了脸，垂下了眼帘。松鼠继续凑近信子说着，嘴里呼出的热气喷到信子的脸上。信子两手捂住耳朵，拼命地摇着头。“不要，不要。不要再讲了。我说不要了。松鼠，太纠缠人，真讨厌。”

于是，松鼠突然哈哈大笑起来。松鼠的笑声停不下来。弄得信子心情很差。

“松鼠，你不是也够头晕的吗？在电话里哇啦哇啦地讲得好像马上就要自杀似的，——我那时可是当真了，多么担心你啊。”

“哦，你是说结婚的事？哈哈。那时候呀，刚跟老爸吵了一架，气得要死，所以离家出走，只是在成的小窝里住了一晚而已。那棉被

脏脏的，有一股酸味，因为污垢油光锃亮的。不过，我不在的话，弟弟太可怜了，所以就住手了。什么呀，那种不务正业的家伙。”松鼠故意大声地说道，她皱起鼻子笑着。

“太叫人吃惊了。住一晚，可以这样做吗？”

“不好吗？”

松鼠用嘲弄的眼光反问道。

“不，不，如果仅此而已的话，也谈不上什么好与不好的。不过，你真的什么都没有吗？”

“不可能有什么的。你看看我的脸。”

松鼠的脸因兴奋而红彤彤的，闪闪发亮。信子静静地看着松鼠兴奋地张动着的薄薄的嘴唇。

“喂，信子，我告诉你真话吧，呵呵……”

“真可怕。”

“没什么好怕的。那天晚上成不回自己的小窝，要去弹子房做保安，我事先听老哥说过的，知道的”

“哦，是么，真的？”

“也许是撒谎吧。……不过这种事又算什么呢。都无所谓吧。在很早以前，一直到万叶时代，男女之间更加自由自在光明磊落地恋爱，……超人不是这么说过吗？”

松鼠把脸凑近过来，轻轻地握住了信子的指尖。

“我跟你讲，我跟你讲，希望你能理解我。我的身体里面养着一头不听话的野兽，很痛苦，有时都喘不上气来。喂，明白吗？”

“嗯，嗯，明白，我明白。”

究竟明白了什么，信子自己也不知道。不过，信子痛楚地感觉到松鼠的那种身体里的“不听话的野兽”的感情。那个喜怒无常、无条理的家伙。

“啊，隆幸。”

纯叫了一声，站了起来。

“隆幸不见了。”

隆幸坐的那张桌子，一次性筷子还没有掰开过，没碰过的拉面原

封不动地摆在那儿。

“真的，什么时候跑掉的呢？”

松鼠跑到门边朝外面的路上看了一圈，又回到座位上。

“大概是要小便，到附近的哪个小弄堂里去了吧。”

“这个犟头犟脑的家伙。”

辰五郎怒吼着，咚地敲了一下桌子。

“我请客，有什么不满吗？”

“嘿嘿……”

成笑着说：“所谓的抵抗期吧。随他去吧，大叔，随他去吧。”

纯又想起了妈妈阿富。阿富蹲在开始暗下来的厨房焦急地等着领薪水回家的辰五郎。她爸先不说，纯这个时候可该回来了。她正仔细地听门外的脚步声吧……突然纯觉得拉面的味道难吃起来了，甚至有股苦味。纯吃不下去了，放下了筷子。

5 练习答案

(一)

1. 一般に若い女性を指すやや俗語っぽい表現として「ねえちゃん」と呼んだのであって、親族名称として「姉」を指すのではない。同類の表現では、若い男性を「兄ちゃん」と呼ぶことがある。
2. 威張るときなどの表現。一般にチンピラなどが使う。本文にはほかに、「おれにおごってもらう」(P. 4、本文終わりから8行目)がある。
3. リスは庶民的で活発で、ノブ子はいかにも育ちがよく礼儀正しい。
4. 「うまい」はもっぱら男性が使うことばである。より日常的で、実感が表現されることが多い。「おいしい」は日常的にも使うが、いくらか改まった部分がある。
5. 「非常に」ではないが、「かなり」の意。同類の表現は「小金(をためる)」「小太り」「小きれい」など。
6. 上流階級のお嬢様であるノブ子にとって、庶民的な店のラーメン

ンがおいしく、ラーメン屋の雰囲気も楽しく、またリスの言うより庶民的な店及び庶民的なものについて、珍しいものを知りたいという気持ちがかき立てられたから。

7. (日本の常識としては)恐らくリスが家事全般をやっているから。
8. 正しい言い方は「抵抗期」ではなく「反抗期」。筆者はここでジョーの知ったかぶりを表現しようとしている。
9. 登場人物は6名。

男性3名

辰五郎: ジュンとタカユキの父

タカユキ: 辰五郎の息子、ジュンの弟、ジョーの知り合い。

ジョー: リスの兄の友達(知り合い)

女性3名

ジュン: 辰五郎の娘、タカユキの姉、リスとノブ子の学校友達

リス: ジュンとノブ子の学校友達

ノブ子: リスとジュンの学校友達

(二)

1. 窓から見ると、外は身にしみるような寒さのようだ。さっきから雪がちらちら降り始めた。庭からは、四五人の子供がふざけてきゃっきゃと笑っている声が聞こえてくる。ペチカでは火が勢いよく燃え、薪がパチパチとはぜている。部屋の中は汗をかくほど暖かい。
2. おおいに飲み、メートルを上げているときに、突然その話を聞いて、彼は冷や汗をかいた。
3. 彼女はすっとんきょうに「何? いい加減なことを言わないで。」と叫んだ。それから理屈は自分のほうにあると、じゃんじゃんしゃべり出した。
4. 彼女は聞こえよがしに、雪子に言った。「彼が一、二度流し目を使ったぐらいで、あなたに気があると真に受けてはだめよ。彼は誰に対してもそうなのよ。」
5. 彼ときたら気まぐれなんだ。何事にも物分かりがよいように見

えたかと思えば、突然途方もなく頑固になったりする。

6. 彼はいつも遅刻するから、いい加減いやになる。しかし置いていくわけにも行かないから、やきもきせずに、もう少し待とう。
7. ある年寄りの先生はこう語った。学校が学生に言うことを聞くことばかり要求すると、子供たちの豊かな想像力や開拓精神の育成を損ねる。また、学校間で張り合って進学率を争うことは、小中学校の教育で丸暗記に重きを置く事態を招く。
8. 事故に遭って悔しいお気持ちは痛いほどわかる。しかし、何はともあれ、人が無事でよかったじゃないか。
9. チンピラたちは互いに目配せして、「覚えている」と捨て台詞を残して行った。
10. 町までは車でたつぷり5時間はかかる不便な片田舎だが、子供たちはここで毎日新鮮な野菜をもりもり食べ、川だ山だとのびのび育っている。
11. 今日の彼はいつもの薄汚い格好ではなく、赤いTシャツという派手な身なりで、いかにも上機嫌な表情をして現れた。
12. 少し勉強するとすぐ頭が痛いと言う。加減が悪いのではなく、根性がないのだ。
13. 私は一日だけのバイトをして七千円稼いだが、その帰り道に、スピード違反で七千円の罰金を取られた。もうバカバカしいつたらないよ。
14. 全く人は見かけによらないものだ。真面目人間だと思っていた彼が、会社の金に手をつけるなんて。

6 扩展练习

6.1 次の各文の下線部の漢字に読み仮名を書きなさい。

1. 場所は古ぼけた小学校の校庭だが、森閑として物音一つしない。
2. おりおり蘇って来る、最も古い記憶の一つで、たぶん、彼の五歳頃のことだったろうと思われる。
3. 彼女は、槍一筋の武士の娘であった。

4. そこで、三人の日向ぼっこの話にもどる
5. 土埃にまみれた彼の鼻と唇のあたりに、ほんの僅かではあったが血がにじんでいるのを見つけたのである。
6. 校庭の溝をとび越えて、畦道の方に逃げ出した。

6.2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 得るものがあれば失うものがある。何も失わずに何かを得ることとはできない。

亡き開高健がよくエッセイに書いたこの言葉が好きで、常に②()に銘じてはいた。そういう心構えさえあれば、人生で出合う大概の不条理な出来事は無理にでも③納得できるのではないかと思っていた。

だから、平成元年に第百回④芥川賞を受賞したのちも、⑤一介の臨床医として地に足を着けた生活することだけを念頭に置いた。講演会、テレビ出演、作品の映画化……。⑥様々な誘惑を仕掛けて底上げしようとする世間の力に抗して、⑦己のあるがままの小さな存在を保つにはそれなりの気力体力を要した。

週刊誌用のビールのCM 写真を撮らせてくれないか、との申し出があったときも、もし受け持ちの患者さんがその雑誌を病院の売店で買ったら、そして、彼がもう(⑧)アルコールも飲めなくなっている末期癌患者さんだったら、などと考えるとどうしても受ける気にはなれなかった。⑨シンコクぶった顔で夫や息子の予後の悪さを告げた主治医が、缶ビールを片手に笑っている写真を見たら、家族の怨念はいかばかりか。

二十五歳の春に医者になってから、死は常に生活の一部になっていた。最初に受け持ったのは四十五歳の末期胃癌の患者さんで、いくら精神発達に遅滞のある男性だった。癌性の腹水で膨らんだ腹に⑩クダを刺して水を抜くと、呼吸が楽になるから彼はとても⑪無邪気な笑顔を見せた。(⑫)抜きすぎるとショックを起こすので、血漿成分を輸液した。腹水も輸液もおなじような薄い黄色で、一方から入れ、他方から出すというのは、結局のところ何もしていないのとおなじではないのか、と深い徒労感に捕われた。患者さんの笑顔が無垢なもの